

今週（5月16日から5月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期に入ったことで銀行業態を中心に様子見姿勢に転じる動きが広がり、運用・調達共に参加者が減少した。当座預金残高は概ね270兆円台後半から280兆円台前半程度で推移した。

無担保コールO/Nは、▲0.060～▲0.045%の出合いが中心となり、無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して▲0.060%前後での推移となった。先週に引き続き、まとまった量の調達を行う先が見られたものの、参加者の減少により全体の取引量は抑えられ、無担保コールの市場残高は4兆円台で推移した。ターム物は、1W～1M物程度の期間で▲0.050～▲0.040%程度での出合いが中心となった。また、事務処理の制限等を理由とした0%近辺での出合いも散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、19日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額5,591億円（期落ちは2,880億円と2,270億円）の札割れとなった。

●レボ市場

今週のO/N GCは、週を通して証券会社の売り物が多く、GCレートは▲0.08～▲0.05%近辺と高めで推移した。月曜日のS/N(5/18-19)は、▲0.08～▲0.075%近辺の出合い。火曜日のS/N(5/19-20)は、5Y発行要因から売り物が多く、▲0.075～▲0.07%近辺の出合いと若干レートが上昇した。水曜日のS/N(5/20-23)は、短国1Yの発行要因でレートが上昇し、▲0.065～▲0.06%近辺の出合い。木曜日のS/N(5/23-24)は、短国3Mの発行要因から更にレートが上昇し、▲0.06～▲0.05%近辺の出合い。金曜日のS/N(5/24-25)は、国債・短国の買入オペが通知されたことで売り物が減少し、▲0.085～▲0.075%の出合いまでレートが低下した。

SCは全体的に締まった銘柄は少なく、GCレートの上昇に伴いSCレートも緩んだ。ビッドが目立った個別銘柄では5y 125～127、10y 336～342、30y 48～50、40y 6～8などにビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、堅調な地合いとなった。業者の在庫がそれなりに残っていると見られるものの、今月は短国買入オペが増額されており、海外勢の買いも継続していることから、積極的な売りは出難い状況となっていた。極端にタイト化する銘柄は見られず、出合いのレンジは、3M▲0.28～▲0.24%、6M▲0.39%、1Y▲0.37%～▲0.30%程度となっていた。

短国の入札は18日に1Y物、19日に3M物が実施された。1Y物は按分▲0.3152%、平均▲0.3251%、按分比率60.09%と過去最低を更新する堅調な結果となった。3M物はWI取引で▲0.245～▲0.24%の出合いが小額見られる中、按分▲0.2405%、平均▲0.2489%、按分比率83.3779%とこちらも過去最低を更新する順調な結果となった。セカンダリーでは、いずれも入札のレート水準から数ベース強くなる程度にとどまり、比較的落ち着いた取引となっていた。

短国買入オペは、20日に3兆円でオファーされた。按分利回較差0.00%、平均利回較差+0.016%、按分比率84%と、概ね事前予想通りの無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の償還総額3,100円程度に対し、週間の発行総額は4,800億円程度で、商社、鉄鋼、小売、電力、建設等の業態からまとまった発行案件が見られた。発行残高が伸び悩む中、プラス圏のレートでは投資家、ディーラーの買いが集中しているものの、マイナス圏を買い進む動きは見られなかった。発行レートは、一部の銘柄で若干のプラス圏となっていたものの、概ね0.00%近辺であった。

18日にはCP等買入オペがオファーされた。オファー額は、先月末時点の予定より500億円増額され、4,000億円となった。結果は按分レート・平均レート共に▲0.001%となるなど、前回より更に上昇した。オファー額が増額されたものの、前回到続いて応札額が多く、積極的な応札姿勢が継続している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/16（月）	16,466.40	△ 0.115	108.80	△ 0.063	△ 0.076	2,772,500
5/17（火）	16,652.80	△ 0.115	109.02	△ 0.058	△ 0.077	2,818,700
5/18（水）	16,644.69	△ 0.105	109.54	△ 0.059	△ 0.066	2,822,100
5/19（木）	16,646.66	△ 0.080	110.07	△ 0.058	△ 0.062	2,793,000
5/20（金）	16,736.35	△ 0.110	110.00	△ 0.053	△ 0.059	2,785,400

来週（5月23日から5月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/23 (月)	慶應義塾大学・ボッコーニ大学共催 日伊国交150周年記念カンファレンスにて中曽副総裁講演 月例経済報告(内閣府) 4月の貿易統計(財務省 8:50) 3月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				
5/24 (火)		流動性供給 5,000億円 5/26発行			4月の米新築一戸建て販売件数
5/25 (水)		交付税借入 10,500億円 6/3借入			
5/26 (木)	伊勢志摩サミット（27日まで） 4月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 5/30発行	40Y 4,000億円 5/30発行		4月の米耐久財新規受注 1-3月期の英GDP改定値
5/27 (金)	5月都区部・4月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)				1-3月期の米GDP改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/23 (月)	700	▲ 5,400	▲ 4,700	全店共通 CP買入	▲ 5,200 ▲ 100	5,600 4,000	4,300	▲ 400	TB3M発行▲44000償還44700 20Y発行▲11000
5/24 (火)	0	1,000	1,000	国債買入 短国買入		11,900 30,000	41,900	42,900	
5/25 (水)	0	0	0				0	0	国有林野事業借入▲600期日600
5/26 (木)	▲ 1,000	10,000	9,000				0	9,000	地方貸し 流動性供給▲5000
5/27 (金)	▲ 2,000	2,000	0	社債買入		1,000	1,000	1,000	交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	▲ 2,300	7,600	5,300	—	▲ 5,300	52,500	47,200	52,500	

5/23は日銀予想、5/24以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20年債の発行などがあるものの、週を通して1兆円以上の変動は無いと見込まれる。

短国市場は、イベントが少なく、週前半は閑散なマーケットが予想される。26日に3M物の入札が予定されており、堅調な地合いが継続するかどうか注目される。

CP市場は月末発行にかかる週となり、発行案件の増加が見込まれる。26日にCP等買入オペが4,000億円オファーされる予定となっており、通知額の増減などが注目される。

主要なイベントとしては26日から始まる伊勢志摩サミット、27日の4月の全国CPIなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入